

会 議 の 名 称	令和5年度第6回茅野市総合計画審議会		
開 催 日 時	令和6年3月21日(木) 19時00分~20時30分		
開 催 場 所	茅野市役所7階 703、704会議室		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
市長	<p>○議事</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱書交付</li> <li>3 市長挨拶</li> <li>4 委員・事務局自己紹介</li> <li>5 正副会長の選出</li> <li>6 正副会長挨拶</li> <li>7 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 総合計画審議会の役割について資料1</li> <li>(2) 第5次茅野市総合計画の位置付け、構成、進捗状況等について資料2</li> </ol> </li> <li>8 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第6次茅野市総合計画基本構想(案)について資料3</li> </ol> </li> <li>9 その他</li> <li>10 閉会</li> </ol> <p>○議事録</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱書交付 =委員名簿順に市長より委嘱書の交付=</li> <li>3 市長挨拶 お忙しい中、全員のご出席ということで本当に感謝申し上げます。 茅野市には様々な計画があるが、総合計画は最上位の計画である。これまで約2年の間、総合計画審議会においては、まず、第5次総合計画の5年に1回の間見直しということで、バージョンアップしたものを作成するという話から始まったが、議論を進めていただく中で、新しい総合計画にした方が良いのではないかとのお話しをいただき、第6次の総合計画の策定を進めていただけてきたところである。昨年12月に総合計画審議会から基本構想(案)の答申をいただいた。今後、パブリックコメントを行い、その結果を踏まえて、令和6月の市議会定例会に上程したいと考えている。 この基本構想(案)では、まちづくりの目的に「幸せを実現できるまち」を、キーワードに交流を掲げ、3つの交流を軸に様々な事業を展開していく内容になっている。3つの交流は、市内の交流、市外との交流、そして“知”の交流といった、ネット空間等でやり取りされる目に見えない</li> </ol>		

	<p>知見、知恵を定義している。</p> <p>一方で、様々な事業を展開するには行財政改革も併せて進めていかなければならない。人口減少、少子化が進む中、このまちが将来どうあるべきかということをしっかり考え、将来に希望が持てるようにしていく必要がある。行財政改革というと、ただ予算を切れば良いという見方をする人が多いが、そうではなく、まちづくりのやり方そのものを見直していくことが必要だと思っている。</p> <p>いずれにしても、総合計画は、茅野市のこれからの将来像をしっかり作っていく、その大元になるものなので、委員の皆様方、それぞれのお立場から、多様なご意見をいただけることを期待している。2年間の任期となるが、よろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>4 委員・事務局自己紹介</p>
	<p>5 正副会長の選出</p> <p>委員が新しくなって初回の会議のため、互選による正副会長の選出をお願ひしたい。</p>
委員	<p>会長、副会長について立候補はいるか。 ＝挙手なし＝</p> <p>その他選出方法についてご意見はあるか。</p>
事務局	<p>事務局に案はあるか。</p>
	<p>先ほど市長からの挨拶にもあったが、第6次の総合計画については、前の総合計画審議会から継続して協議を続けている経過もあるので、事務局としては、前の総合計画審議会の会長の矢崎敏臣さん、同じく副会長の高村志保さんのお2人に引き続き正副会長をお願ひしたいと考えている。事務局からの提案に合意いただける方は拍手願ひたい。 ＝一同拍手＝</p>
	<p>正副会長は、それぞれ席を移動願ひたい。 ＝矢崎会長、高村副会長移動＝</p>
会長	<p>6 正副会長挨拶</p> <p>前の総合計画審議会では、コロナ禍での計画策定ということで、どうなってしまうかと思っていたが、コロナ禍だからこそ、何が大事か、何が必要かということが逆に見えてきたとも思っている。</p> <p>今まで総合計画は10年の計画だったが、世の中の流れを見ていくと、10年間同じ計画で本当に良いのかということを感じ痛感するような社会経済情勢の大きな変化があった。そうした中、5年計画の第6次の総合計画を策定しようということになり、前の総合計画審議会の委員の皆様、並びに事務局の職員の方々に本当に一生懸命考えていただいて、本日、ご説明させていただく基本構想（案）が出来ている。この案については、12月19日に市長に答申させていただいたものだが、新しい審議会の委員の皆様方にも揉んでいただくとともに、パブリックコメント、さらには議会にも諮るという流</p>

副会長	<p>れになっており、様々な方々からお考えをいただき、より良いものにしていきたいと思っている。何卒ご協力をお願いしたい。</p> <p>第5次の総合計画から関わらせていただいているが、本当に時代が変わったというか、こんな時代を見ることになるのかというぐらい社会は変わってきている。それに柔軟に対応した計画にするため、私たちの考え、皆さんの得意分野の意見をまた寄せていただくことで、新たな世界もまた見えてくると思っている。2年間よろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>7 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審議会の公開について</li> </ul> <p>茅野市では「審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき、会議内容は原則公開している。また、当審議会ではこれまで、委員名を伏したうえで議事録をホームページへ掲載している。</p>
会長	<p>従前にならない、審議会の内容は公開とし、議事録はホームページへ掲載していく事で良いか。</p> <p>＝異議なしの声有り＝</p>
事務局	<p>(1) 総合計画審議会の役割について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span></p> <p>(2) 第5次茅野市総合計画の位置付け、構成、進捗等について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></p> <p>＝一括して事務局が説明＝</p>
会長	<p>2つの報告事項について、皆様のご意見等をお聞きしたい。</p>
委員	<p>市民の教育、すなわち市民力を上げていくという観点が入ってない。人材育成ビジョンという言葉があるが、これは市役所職員の人材育成のことを指している。自助という言葉や、自分たちのことは自分たちでと言いながら、市民の力をアップするということが欠けているのではないか。それがこれから重要になってくる。</p> <p>また、人口減少と言っているが、それは今の子どもたちの人口であって、これから20年は、自分たちの世代がどんどん増えていく。したがって、本当に生産年齢人口が減少して困るという状態になるのは30年後だと言われているが、このビジョンでは、どこまでのことを言っているのかがわからない。今生まれた子どもたちが市役所の運営の中心になることはないわけで、10年以上先のことになる。実はパブリックコメントでその辺も書かせてもらったが、あまり反映されていないと感じている。</p>
会長	<p>事務局からコメントいただきたい。</p>
事務局	<p>委員おっしゃったように、人材育成ビジョン自体は、市役所の職員の人材育成を目的とするものである。しかしながら、その中には地域のことを把握し、様々な活動を市民の皆さんと一緒にやりながら、職員自身が学び、育つということも含まれており、そうしたことは間接的に市民力の向上にもつながっていくと考えている。</p> <p>いずれにしても、まずは、基本構想(案)で3つのまちの姿を浮き彫りし</p>

<p>委員</p>	<p>て、それを実現するための具体的な施策を基本計画として定めていく予定である。その中で、市民力のことや、地域など様々な単位の力の合わせ方などについても検討していきたいと思っている。</p> <p>何が問題なのかという分析がとても大事だと思っている。例えば資料2の、今後に向けてという現状分析のところにある、人手が足りなくなるのだから、より少ない人数、より少ない負担で、効率的にというのはわかるが、実はDXの時代においては、より多く、全員参加ができるのに、それを少ない人でまわしてしまうという問題意識を課題としてまとめるのは、時代に反しているのではないかと思う。人手不足というのは、人口不足のことを言っているのか、なり手不足のことを言っているのか曖昧である。だから人口減少や高齢化という文脈だと、なり手がいないというのは人が少なくなったというニュアンスを感じるが、実はさっき言ったように、どんどんシニア世代は増えていくのに、なり手がいないというのはどういうことなのか。</p> <p>また、現状、個人は満たされているが社会は満たされていないと感じていて、そうすると市民力が重要であり、これから未来に向けて全員参加でまちづくりをしていくという意識を持っていないといけない。交流人口で他者に頼むというような雰囲気のことを書かれているので、問題意識としてちょっと違うのではないかと感じている。</p>
<p>会長</p>	<p>後ほど第6次総の基本構想(案)を説明させていただくので、また盛り込めるところは盛り込むよう、事務局で検討していただきたい。</p> <p>次に協議事項として、第6次茅野市総合計画基本構想案(案)について、事務局から説明いただく。</p> <p>(1) 第6次茅野市総合計画基本構想(案)について資料3 ＝事務局が説明＝</p>
<p>会長</p>	<p>ご意見等あったらお出しいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>やっぱり重要だと思うのは、与件の整理にある分析である。問題意識のベースはどこかを考えると、まず、3ページの3番にある公民協働のパートナーシップのまちづくりというところに公民館活動が基本と書かれているが、公民館活動とは何のことを指しているのかが曖昧なままで、この後にも出てこない。また、7ページも同じで、今後公民協働のまちづくりを転換していくという問題意識が、人口減少、少子化でこれまでのパートナーシップのように、地域に多くの人手のあることを前提とするまちづくりの仕組みからとあるが、この部分はこの評価で良いのか。これがさっき言ったように、人口が少なくなったのか、役をやりたいという人がいないことなのか、その辺が少し曖昧になっている。人口減少という文脈を使うと、人そのものの数が少ないという印象を持たせる。やはりこの辺を分析して、その結果、より少ない人数でやっていくような転換が必要だというリードが入っているが、これはかなりバイアスがかかる話なので、ここはもう少し分析を見直しても良いのではないかと感じている。</p> <p>全般的にこれといって大問題だという部分はないが、先ほどの話からすると、改めて30ページの分野別のところに、市民活動・住民自治というカテゴリが入っているが、なぜこれが新しく増えたかということが特に言及されていない。また、パートナーシップ云々と言っているところが実は22</p>

	<p>ページの行財政改革の文脈だけである。全てのまちづくりの取組みの推進をパートナーシップでやってくというのが茅野市の言っていたパートナーシップだと思うが、行財政改革の中の文脈だけに入っていて、関連する計画を見ると、結局、施設をどうするとか、お金に関わるところだけのような感じがしている。この辺が結局重要なことだとは思いますが、やはり今後5年間で始めるのは市民力アップの取組みであると思っている。</p> <p>最後質問だが、若者に選ばれるまちづくりというのは良いと思うが、結局それをどうやって実現していくのか、何をすると若者に選ばれるのかということを考えるのは、どこでやっていくのか。総合計画はビジョンということなら良いが、計画という名が付くのであれば、具体的に何をするのが書かれているものになると思う。その辺はどのように考えれば良いか。</p> <p>人手不足については、人口減少で人の数が物理的に減っていくということに加えて、仕事が忙しかったり、日々の生活に追われて地域の役を担う余裕がないという方が多くいて、担当課から話を聞くと、今まで通りコミュニティを運営していくのは大変というのが現状である。定量的なエビデンスはないものの、肌感覚として感じて把握できている部分である。</p> <p>したがって、これまでなかなかまちづくりやコミュニティの活動に関われなかった人たちの参画を実現するために、デジタルを使うというやり方があると考えている。こうしたパートナーシップのまちづくりの現状を踏まえた今後の展開については、現在、庁内の会議で議論しており、具体的には、これから策定を進める基本計画の中で描いていく予定である。</p> <p>若者に選ばれるまちについては、第2次の総合戦略のメインコンセプトであり、その目指すまちの姿の実現に向けて様々な施策を展開している。したがって、若者に選ばれるまちになるための必要な施策については、総合戦略の中に位置付けられている。そして、将来的には総合戦略と総合計画を1つにしていきたいと考えている。</p>
事務局	<p>基本構想(案)を踏まえて、これから基本計画を策定していく。具体的な施策は、そこに位置付けることになる。</p> <p>将来展望人口の5万5,000人が1つの目標値になっているが、数だけ増えれば良いというものではない。お年寄りが増えることが良いか悪いかわからないが、数だけではないということで、生産年齢人口の話もテーマに挙げさせていただいている。15歳から64歳までということになるが、55%以上が目標値になっている。</p> <p>若者に選ばれるのはなかなか難しいと思うところだが、若者からすると、自己実現ができるようなまちだったら住んでも良いかなと思うのではないかな。</p> <p>また、幸せを考える、幸せを感じるまちという部分には、ウェルビーイングという言葉が出てくる。最初、全然イメージがわかなかったが、1年半ほど審議会で議論をする中で、世の中にも広まりつつある言葉になってきた。57.2%を超えるという目標も、達成できるのかなと思うが、こうした目標を見据えて、これから基本計画で施策を打っていくというような形になると思う。その辺も含めて、審議会でご意見等いただきたい。</p> <p>他にご意見等あればお出しいただきたい。</p>
会長	<p>茅野市に移り住んで5年ほどだが、本当にいろんな面で豊かなところだ</p>

	<p>なという印象。5年後の茅野市も素晴らしいというイメージしかない。</p> <p>ロボット工学が専門の森政弘さんという方の50年前の言葉で、真面目でなくて、不真面目でもなくて、非真面目を進めるといったものがあった。その観点から少しお話しさせていただくと、この基本構想(案)は5年後を目指すということになっていて、本当に心底素晴らしいことがいろいろ書いてあると思うが、例えば縄文から学ぶといった時に、縄文の人たちは果たして、5年後を考えて暮らしていたのかというと、そうではないと思う。1000年後を考えて生きていたと考えると、そういう視点を持って縄文から学ぶということ捉える必要があると考える。</p> <p>もう1つ、これからは、世界の潮流があつて、国があつて、自治体があつて市民があるという、このピラミッドが逆になっていくのではないかと。個人があつて、その下に国なり、世界の潮流があるということ。したがって、茅野市全体が主人公で、茅野市流に世界が追いついてくれば良いのかなという感じがする。それぐらい、茅野市はいろんな条件が整っている地域だと思う。それにはやはりいろんな常識の壁を外すということが大切であると考えている。</p> <p>第5次の総合計画について、先ほどいろんな評価もあつたが、概ね順調に進んでいるというのであれば、何も問題はないと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>大変貴重なご意見いただいたと思う。事務局いかがか。</p>
<p>事務局</p>	<p>第5次の総合計画の評価ということだが、これを作ったのは5年前の話である。その時は10年計画で作ったが、こんなに人口減少の問題が大事になるという感覚がないままに作られた計画だったと思う。進捗を見ると、非常に良好な部分もあるが、時代の移り変わりが激しくなっている中、このままでは、難しい局面に差しかかっている。そういった部分で、今回、第5次の総合計画の中間見直しではなく、新しい方向性を持った計画に変えていくべきだろうということで、第6次の総合計画の策定の議論になっている。第5次の総合計画の振り返りも大事だとは思うが、ここで一旦仕切り直しをして、新たな第6次の総合計画の視点、今日ご説明した基本構想(案)の視点にご了解いただけるのであれば、その方向でこれから基本計画の議論をしていく必要があるのかなと思っている。</p> <p>ご指摘をいただいた茅野市には非常に素晴らしいものがあるという部分、本当にありがたいことだなと思うが、ここに住んでいる者からするとなかなかその良さがわからないというところもある。そういった部分も広い視点で、市外の方からの意見というものも取り入れる中で、これから茅野市がどうあるべきかということと一緒に考えていければと思っている。</p>
<p>会長</p>	<p>第5次と第6次の2つの総合計画の策定に関わった感想になるかもしれないが、第5次の時は、いろんなことに夢を持てた時代だったように思う。あれもしたいこれもしたい、これもできるのではないかとという風に思いながら計画を作っていたんだろうと思っている。</p> <p>第6次の総合計画の検討に入る中で、やはりコロナ禍の3年間、巣ごもり生活みたいな経験をする中で、人と人との交流ができないことがこんなに苦痛なのかと思ったり、生活様式も大きく変わった。例えば、お葬式。昔は人数が多い方が良いということで、何百人来たとか、数で比較をしていたが、そういうこともコロナ禍ではなくなった。本当にお世話になった人に会</p>

	<p>いたい、お礼を言いたいというような選別がされてきているということ。やはりコロナ禍を経験した中で、何が生活の中で一番大事なのかということを変更して考え直した経緯がある。</p> <p>こうした現実を見ると、様々な事において、何が大切なのかという優先順位をつけ始めているのかなと感じている。第6次の総合計画に大きく切り換えた理由はそこにあると思っている。そんな観点で第6次の総合計画の基本構想（案）を捉えている。</p> <p>また、先ほどもお話しがあったが、茅野市は本当に恵まれてると感じている。他の自治体の総合計画や国土利用計画などに携わらせていただいているが、茅野市ほど材料があるところはなかなかない。したがって、言い方は悪いが、宝の持ち腐れをしては駄目だと思っている。</p> <p>先ほど地域コミュニティの話があったが、本当に高齢化によって立ち行かなくなっている現状。隣に回覧版さえ回せないような状況で、隣近所の20人がもう5人しか動けないというところもたくさんある。そういう中で、DXのようなものを使って、楽になるならありがたいということも切実な話であると感じている。若者に選ばれるまちという話の中で、高齢者が増えているから、若者に選ばれなくて良い、今のままで良いという話もあったが、実は5つ歳をとると、もうその人が回覧板を回せないようになってくるので、若者がいるということは本当に大事なことで、茅野市に諏訪東京理科大学があるということは大変な財産だと思っている。そういった地域資源を有効活用していくことも大事だと感じている。</p> <p>昔、やらざあ百人衆という人たちが茅野市にいた。言ったからには実行するという人たちだったが、そういう人たちが今減ってきている。こうした人材の育成も非常に大事であると思っている。そんな観点でもご意見等をいただきたいと思う。</p> <p>素晴らしい内容を聞かせていただいた。これから基本計画を策定するというので、要望を含めてお伝えしたい。</p> <p>楽園信州ちの協議会では月4回、移住体験ツアーを行ったり、東京国際フォーラムの移住フェアに出展するなどの活動を行っている。この総合計画の中にも、移住というキーワードがかなり多く盛り込まれているので、本当に人口増に向けてしっかり取り組まなくてはいけないと感じてはいるが、現状をお伝えすると、例えば、生産年齢人口、高齢者、若者の比率でいくと、現状、高齢者が7割ぐらいで、60歳から70歳くらいまでの方が多く、少しずつ若い方にも関心を持っていただいている。</p> <p>ただ、若い方が移住に至らない大きな原因として働くところ、稼ぐところの問題がある。具体的には、働くところなどを紹介する場や材料がないということである。このことが実際に移住の活動をしていて大きな問題であると痛感している。去年あたりから少しずつ取組を始めているが、基本計画の中には働くというキーワードと、そういった情報発信を行うことを入れ込んでいただきたい。</p> <p>もう1つ、宅建協会の立場からのお願いだが、宅地にできる土地が減ってきており、先ほど土地利用構想の内容は以前から変わっていないとの話だったが、できたら農転などの規制の緩和も計画の中に入れていただければと思っている。</p>
委員	
会長	事務局で検討お願いしたい。他にご意見等はあるか。なければ、これをも

事務局	<p>って協議事項は終わらせていただく。</p> <p>その他ということで、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いしたい。</p> <p>9 その他</p> <p>今後のスケジュールだが、3月29日から4月30日まで、基本構想（案）のパブリックコメントを行い、その結果を反映させた基本構想（案）を、次回、5月中旬頃に予定している総合計画審議会で委員の皆様方にご確認をいただきたい。その基本構想（案）は、最終的に市議会6月定例会に上程していく予定である。</p> <p>なお、委員の皆様方は、パブリックコメントを通じて、また、企画課へ直接メール等をいただくなどして、引き続きご意見等をお寄せいただければと思っている。よろしくをお願いしたい。</p>
副会長	<p>10 閉会</p> <p>大変情報量の多い審議会だったが、様々なキーワードもいただけて、また次の回に向けてここに注目、あそこに注目という考えも出てきたのではないかなと思っている。細やかな視点、そして俯瞰する力を持って私たちはこの審議会を進めていきたい。</p> <p>それでは、令和5年度第6回茅野市総合計画審議会を終わりにします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>